Sustainable Growth by Sustainable Energy from 東北

グリーンフォーラム21 環境フィールドワーク

グリーンフォーラム21（茅陽一座長＝東京大学名誉教授）は、「ベア・ウィトネス（自分の目で確かめよう）」精神を発揮し、先進的な環境保全への取り組みを視察する環境フィールドワーク（東北）を実施した。ユネスコ世界文化遺産登録で注目を集め、東日本大震災による被災地復興のシンボルともされる「平泉・中尊寺（金色堂）」を訪問（下井泰典団長＝日本環境認証機構社長）。さらに風力発電所、バイオマスシステム、ゼロエネルギー住宅あるいは太陽光発電など新エネルギーの普及に取り組んでいる岩手県の葛巻町を訪れた。同町は、グリーンフォーラム21が2011年の活動テーマとする「創・省エネでスマート社会～しなやかな復元力～」にかなった活動を展開、「ベア・フルーツ」（結実）している。

「天と地と人のめぐみ」を生かして 新エネルギーの町宣言

葛巻町（岩手）

エネルギー自給のまちへ

グリーンパワーくずまき風力発電所

岩手県北部に位置する葛巻町は、99年3月に「葛巻町新エネルギービジョン」を策定した。同ビジョンでは、風力や太陽光などの「天のめぐみ」、畜産ふん尿や水力などの「地のめぐみ」、豊かな風土・文化を守り育てた「人のめぐみ」を柱に掲げ、町民の理解を得ながら、新エネルギー導入に積極的に取り組んでいる。観光資源とクリーンエネルギーの相乗効果により地域活性化がうまく軌道に乗っている「町おこしサクセスストーリー」といえる。

葛巻町が、かつての「酪農と林業の過疎の町」から「北緯40度ミルクとワインとクリーンエネルギーの町」へと大きく変貌するきっかけとなったのは、98年ごろに行われた町議会全員による海外視察（デンマーク）。町民の理解・協働を支えに、12人の町議会全員は〝遣唐使と見まがう意気・熱〟をもって、海外での合宿を完遂、今日への道をきり拓いた。

まず、「天のめぐみ」。グリーンパワーくずまき風力発電所は、岩手県葛巻町の標高1000㍍を超える上外川にJパワーが出資するグリーンパワーうずまきが運営を行っている。

同事業は「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法」に基づく「新エネルギー事業者支援事業」の適用を受け、経済産業省の補助金を受けている。

発電出力は、2万100キロワット（1750キロワット風車×12基）。1基当たりの出力増、本数減をはかり、風車間の距離を開けることで、希少な猛禽類や山野草などの生息に配慮した。

年間予想発電量は、約540万キロワット時。一般家庭の消費電力の約1万600世帯分に相当。葛巻町の年間消費電力の約2倍である。「年間を通じて7㍍以上の風が絶えず吹いており、理想的な風況にある」と葛巻町農林環境エネルギー課の鈴口美知代さんは強調する。

また、ゼロエネルギー住宅は、地中熱ヒートポンプを活用した循環型住宅。木造在来工法により通し柱や菅柱、化粧梁、羽目板など葛巻産カラマツをふんだんに活用している。

「地のめぐみ」では、その代表的なものとして、「蓄ふんバイオマスシステム」がある。

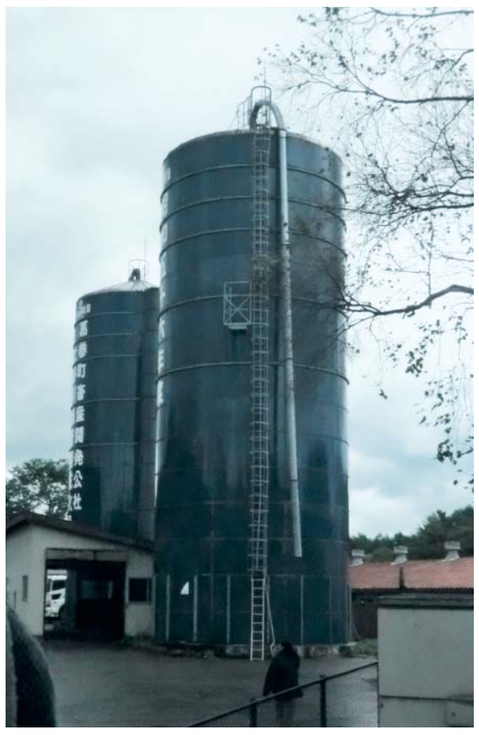
近年、畜産経営から発生するふん尿に起因する環境問題は、飼養規模が拡大したことや、地域住民の環境保全意識の高まりなどから顕在化してきた。

一方、この排せつ物は、有機物や窒素、リンを多量に含み、土壌改良材や有機性肥料として高い価値がある。「バイオガスシステム」は、家畜排せつ物などを原料に熱や電気、有機肥料を回収・有効利用できるリサイクルシステム。処理原料は、乳牛ふん尿スラリー、生ごみ。施設規模は13㌧／日（乳牛200頭）。

大気に環境汚染ガスを放出することなく、有機物を分解するので悪臭の発生が少ないことが主な利点。また、ミネラルはそのまま残り、サラッとした即効性の高い液肥として有効利用できる。「来年までには町内の生ごみをすべて処理していきたい」（鈴口さん）と意気込む

「地のめぐみ」の一つである小水力独立電源システムについては、町内に7つある滝が〝マイ〟20度Cとなる冬季に凍り付いてしまうため、現在は取り組みをやめているという。

葛巻町は10年後には、系統連携からの自立をはかり、「エネルギー自給自足のまち」を目指している。そのためには、「天と地のめぐみ」だけでなく、これまで豊かな風土・高原文化を守り育ててきた「人のめぐみ」をさらに一層、純化・高度化させ「魅力ある町・魅力ある町民」（葛巻町新エネルギービジョン）となる努力が今後、求められる。



畜ふんバイオマスシステム

ゼロエネルギー住宅

平泉・中尊寺（金色堂）

2011年6月26日、中尊寺などの寺院が「平泉の世界文化遺産」として登録された。

暫定リスト入りから10年、登録延期となった前回の審議から実に3年が経過。辛抱強く、待ちにまった登録は、東日本大震災で甚大な被害を受けた東北にとって、「復興のシンボル」に変容したかのように映る。

「なでしこ効果」ならぬ、この「世界文化遺産登録効果」によってか、観光客が際立って増大。中尊寺の駐車所には県外ナンバーの車が並び、飲食店に行列ができるほどだ。平泉観光協会によると、「前年に比べ150%から200%と大幅増」という。

平泉ではやはり、中尊寺の金色堂がひときわ、輝いている。中尊寺は、東北蝦夷の勢力争いの中で幾多の困難を乗り越えてきた藤原清衡が、極楽浄土を夢見て、建立した。

◆　◆

グリーンフォーラム21「環境フィールドワーク」参加者たちにとっては、松尾芭蕉が『奥の細道』で詠んだ「五月雨の降のこしてや光堂」とは趣を異にする初秋の日となった。

歴史作家である関裕二氏は、「なぜ中尊寺金色堂はかくも美しいのか」と自問したうえで、「金色堂には、魂の輝きがある。霊性に満ちている」（『芸術新潮』2011年10月号）と記す。同氏は、「世界文化遺産に登録されたから、ご祝儀を述べているのではない」と、付記することを忘れない。

◆　◆

木曽路は山の中であるが、中尊寺金色堂は山の奥にある。杉木立の月見坂を気持ちよく、一歩づつ確かめながら進むことをおすすめしたい。

金色堂

月見坂

『金色堂には、魂の輝きがある』

グリーンフォーラム21の活動に参加しています。　旭化成、岩谷産業、NEC、NTT、大阪ガス、関西電力、キヤノン、住友化学、Jパワー、東京ガス、東芝、トヨタ自動車、日本環境認証機構、日本政策投資銀行、日本製紙グループ本社、パナソニック、日立製作所、ブリヂストン、ホンダ、三井物産、三菱化学、三菱電機